

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		*	*	*
		商店街（代表者）	来客数の動き	・6月に入り、全道的なスポーツ大会や会議などが相次ぎ、当地域を訪れる来街者が増加した。特に飲食、土産物、宿泊などの業種で売上を伸ばした。また、道内外からの観光客も徐々に増加している。全体的には、装飾品や衣料品以外の業種は好調であった。
		スーパー（役員）	それ以外	・今年の夏はスーパー、ドラッグストアの新店オープンが次々と予定されていることから、建設関係を中心に忙しい状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・以前と比べて、来客数が前年比で上向いている。5月は天候要因による影響とみられたが、6月も回復傾向にあることから、客の動きが良くなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・5月後半に暑い日が続いたことから、6月前半からエアコンなどの夏物家電が好調に売れている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・全体的に前年を上回って、やや良かった。観光客が国内外を問わず微増したことに加えて、複数の大きな音楽イベント、スポーツ大会などが行われたことが好影響をもたらしている。ただ、ランチは、日によって売上が大きく増減したため、対応に苦慮した。ディナーは、フリー客が少なかったものの、団体客の予約が入ったことで来客数を確保できた。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・国内の報奨旅行を効率良く受注できた。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィークの集客が良かったことでの反動で、6月の花による観光の集客が今一つ伸びなかった。ただし、国内チャーター便が前年より増加しているなど、観光繁忙期の夏季シーズンに向けて期待が持てる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信端末の料金変更を行ったことにより、来客数が前年の1.8倍に増加しており、販売量も増加している。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・技術売上及び関連商材の販売量が数か月連続で前年を上回っている。6月は前年から3%程度の増加が見込まれる。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売上が5%弱増加している。今後もこうした傾向が続くとみられる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・前月から変化がみられない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・4月の統一地方選挙、5月のゴールデンウィークといったマイナス要因による影響も一段落つき、平穏な日常が戻ってきた。そのため、物販も飲食も落ち着いた状況にある。ただ、7月は参議院選挙があるため、観光を中心に悪影響が出てくることを懸念している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・6月の売上は前年比98.8%、一昨年比110.3%であった。これまで、アジアなどの外国人観光客による売上は平均して30%ほどを占めていたが、なぜか今月は18%まで落ち込んでいる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前月と同様に、来客数の前年割れが続いている。お中元ギフトにおける1人当たりの贈答件数が減少していることから、客の節約志向は依然として変わらない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量の動きがこれまでと変わらない。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・5月に続き、6月の天候も悪くなかったことから、来客数は前年並みを維持している。商品単価が低下している部門が多いが、客単価がここ数か月と同様に前年並みを維持していることから、売上は前年を上回った。景気自体は決して良くはないが、上向き傾向に転じている。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・前月に引き続きスーツに対する需要が高まってきているが、2月以降の落ち込みをカバーするほどではない。	
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・例年、客足の鈍くなる時期だが、今年は新型車がないこともあり、例年以上に客足が落ち込んでいる。市場もレンタル需要が強く、小売の動きが弱い。	

乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車が出た割には販売量の伸びがみられない。
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・消費税増税を前にして駆け込み需要が少しずつみられるようになっている。また、7月半ばに出る新型車の受注が始まっていることも追い風となっている。全体的に前月から良い流れで推移している。
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が若干みられるものの、販売量は3か月前と変わっていない。
自動車備品販売店(店長)	販売量の動き	・消費税増税を前にして、車の受注が増えている。また、タイヤの値上げが予定されていることから、タイヤの購入も増えている。
その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・タンカー攻撃後も原油価格の急騰などがみられず、石油製品価格が安定して推移していることから、景気に変化はみられない。
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・6月の売上は前年から25%の増加となった。ランチの時間帯は予約客を優先しつつ、フリー客に対して待たせないように料理を提供したことで、客の回転率が上昇した。ディナーは年配の夫婦による利用が多く、料理と会話を楽しんでいた。アイドルタイムはお茶の客が多い。また、外国人客は宗教上の理由などから、牛肉や豚肉を食べることができないこともあるため、言葉の壁があっても客の要望をよく聞くようにしている。スタッフの気配りもあり、リピーター客が増えている。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・観光需要も含めた宿泊ホテル関係では、ゴールデンウィークの10連休が好調だったことの反動を懸念していたが、見込みほど下がることもなく、前年並みを維持している。一方、当地を舞台にしたドラマの効果は今のところ不明である。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・営業数値が前年割れしている。
タクシー運転手	来客数の動き	・6月は複数のイベントがあったことから、前月よりもタクシーの利用が多く、タクシー1台当たりの売上は前年比で6%のプラスとなった。ただし、前月までと同様に乗務員不足でタクシーの稼働率が大幅に低下しており、会社の売上は前年から4%のマイナスとなった。
タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関係でのオーダーが順調であった。一方、国内観光客や外国人観光客による利用は若干のマイナスとなった。全体的には景気は変わらないままである。
タクシー運転手	販売量の動き	・人手不足の影響が顕著であり、需要に対応できない部分がある。また、ゴールデンウィークにおける支出が増加した影響で、客が外出を控える傾向もみられる。
パチンコ店(役員)	単価の動き	・食品の値上げの影響により、客の消費動向が不透明になってきている。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・住宅を中心に駆け込み需要がほとんどみられない。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の様子に変化はみられない。また、商談に要する時間がやや長めであることも変わらない。
商店街(代表者)	単価の動き	・高額商材の動きが良くない。消費税増税が予定どおり行われるのが、客が様子見していることも否めない。
商店街(代表者)	販売量の動き	・果物の在庫が見込みよりも早くなくなったことがマイナスとなっている。
一般小売店[土産] (経営者)	来客数の動き	・6月は外国人観光客が堅調に推移している。また、国内客もコンサートなどのイベントがあったことで乗降客が増えている。これらの動きに伴い当店の売上も増加しているが、コンサートの影響による部分が大きく、こうした特殊要因を除いた景況感は余り良くない。
一般小売店[酒] (経営者)	販売量の動き	・売上のほとんどを占めている得意先の売上が総じて良くない。ここ2年ほど、売上は上向きで推移していたが、ここに来て急激に減速している。

	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・6月に入り、外国人観光客の来客数、売上が減ってきている。これまで国内客による売上のマイナス分を外国人観光客でカバーしてきたため、全体的に厳しい状況になっている。
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・前月まで売上をけん引してきた外国人観光客の伸びが、6月に入りマイナス傾向に転じており、全体を押し下げる要因となっている。外国人観光客の動きが読めず、今後の景気が回復基調になるかどうか不明である。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・全体的な販売量の動きは変わらないが、当社の場合、店舗によるばらつきが大きいことがマイナス要因となっている。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・漁業の動きが良くないため、景気がやや悪くなっている。周辺の加工場の動きも悪い。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・テレビなどで年金の話題が多く取り上げられていることから、高額商材の購入に影響が出ている。イベントへの来客数も少なく、販売量にも影響している。
	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・天候面での影響もあるが、消費税増税や年金不足に関する問題がかなり尾を引いている。客の買い控えが起きている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後から、予約などの客の動きが例年と比べて鈍化している。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・北海道ふっこう割やゴールデンウィークの反動なのか、国内個人客、外国人団体客の来客数が伸び悩んでいる。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク特需の反動により、それ以外の月の状況が厳しくなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・6か月ぶりに前年比プラスに転じたが、イベント需要による一時的な効果であり、微減基調から回復しているわけではない。今後についても楽観できない状況にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・6月の売上は、前年から約3割の減少となっている。3か月前と比べても状況が悪化している。この先についても景気が上向かない限り、厳しい状況が続く。
	タクシー運転手	お客様の様子	・労働者不足の影響が大きく、前年と比較してもタクシーの稼働率が低下している。また、7月の参議院選挙を控えて、夜の会合なども少なくなっている。10月に予定されている消費税増税を控えて客の動きも悪くなっている。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・6月25日時点の売上は前年比90.1%とかなりの落ち込みとなっている。天候に左右される業態であるが、今年は例年と比べて天候に恵まれており、外国人団体客が顕著な落ち込みをみせていることが要因となっている。
	美容室（経営者）	それ以外	・政治や経済のニュースなどの影響で、客がお金を消費するよりも、貯蓄に回すようになってきている。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年は特にツアー客による利用が顕著に減少している。
	× 百貨店（営業販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は横ばいだが、婦人服、婦人雑貨、紳士服などにおける買上客数、客単価が前年を下回っている。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-	-
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は前年比マイナス1%であったが、3か月前の販売量は同マイナス2%だったため、景気はややよくなっている。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・リゾート物件向けの需要が好調である。また、組合の共同販売事業における販売も堅調に推移している。
	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・注文戸建て向けの販売量の動きが良い。また、リフォーム関係の見積依頼も増えてきている。
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・新年度の公共工事が一斉に発注されている。ただし、建設関連各社では配置職員の不足で困惑している。
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越工事に加えて、新年度受注の工事が本格的に着工期を迎え、出来高が順調に積み上がってきている。

	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・6月に入りレンタル機械の動きが活発化してきた。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えている。3か月前の見込み数値を上回ってきている。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が前年から約5%の減少となっている。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・生乳の供給が順調であり、本州方面への輸送量が引き続き増えている。船の輸送能力も増強されたことから、今後もこうした傾向が続く。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・多くの取引先で受注量が引き続き堅調に推移している。ただし、人手不足が継続しているとの客の声も聞かれる。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は10連休となったゴールデンウィークにおける支出増の反動から伸びが鈍化している。観光関連は引き続き堅調に推移しているものの、公共投資の予算執行はまだ本格化していない。また、米中貿易摩擦のほか、ホタテの水揚げ減少、道内大手製造業の業態転換に伴う製品出荷の停止などの影響もあり、生産、輸出入は弱含みとなっている。これらのことから、道内景気は3か月前から横ばいでの推移となっている。
	司法書士	取引先の様子	・例年であれば、不動産取引や住宅建築が活況となる時期だが、当地域の経済活動は全体的に今一つ積極性に欠けている。観光業などは設備投資が活発になっているが、その利益が地域に循環していない。
	司法書士	取引先の様子	・当地においては、初夏に向けて建売住宅などの建設が若干増加している。土地などの取引は若干回復してきているが、景気回復を感じるほどの勢いはみられない。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先が今後の設備投資に対して後ろ向きであることから、景気は変わっていない。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・作業の紹介案件などが幾つもみられるが、相変わらずの人手不足で、対応の難しい状況が続いている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて6月前半の売上にやや伸びがみられたものの、月末に近づくにつれ、前年並みの水準に落ち着き始めている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・先行きの不透明さから、客先が設備投資を抑えている。
	*	*	*
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・外国人を中心に観光客が増加していることで、宿泊業とそれに付帯するビルメンテナンス（清掃）業の求人が堅調に推移している。小売業についても影響が生じており、前年と比べて求人掲載が増えている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として企業の求人意欲が強く、企業業績の堅調さを示している。特に営業系の求人が増えており、企業が業績の拡大を目指していることがうかがえる。また、4月の入管法の改正に伴い、外国人の採用を検討する企業からの問合せも増えている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・若干ではあるが、非正規の求職者が増えてきている。特にシニア層において、そうした傾向がみられる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種や企業によるばらつきがあるが、総合的にみて企業の求人ニーズはまだ高い。以前と比べると、SNSなども含めて、様々な媒体を通じて募集活動が行われている。ただし、人手不足感が強いこともあり、採用活動をスムーズに行えているとはいえない。

	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・全体的に観光業が好調である。平成30年度の外国人観光客の宿泊延べ数は24万人を超え、過去最高となった。全国的に有名な当地の動物園では、ゴールデンウィーク期間中の来場者が前年の1.7倍となった。また、当地の博物館には、アイヌを題材にしたアニメ番組のファンが聖地巡礼で来場するなど、多数の来場者がみられる。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・流通系の企業から、個人消費の動きが若干鈍くなっているという声を聞く。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・5月の有効求人倍率は1.05倍と前年を0.06ポイント上回り、平成22年3月以降9年3か月連続で前年を上回った。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求職者が3か月連続で減少し、新規求人数が5か月連続で増加したことで、新規求人倍率が1倍となった。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・5月の有効求人倍率は1.08倍であり、前年を0.05ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・企業側の採用意欲は依然として高止まりしており、前年と比べても、企業の採用担当の動きに変化がみられない。
	*	*	*
x	-	-	-